

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への
支援・予防対策の開発に関する学際的研究

平成18～20年度

総合研究報告書

大阪府立大学人間社会学部

東 優子

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への
支援・予防対策の開発に関する学際的研究

総合研究報告書

大阪府立大学人間社会学部

東 優子

目 次

■ 総括研究報告

- 1 日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
研究代表者： 東 優子（大阪府立大学人間社会学部）

■ 分担研究報告

- 2 セックスワーク理論の整理と分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
研究分担者： 澁谷 知美（東京経済大学現代法学部）*
- 3 性娯楽施設・産業を利用する男性の性意識・性行動に関する研究・・・・・・・・・・25
研究分担者： 徐 淑子（新潟県立看護大学看護学部）*
- 4 性風俗産業の多様化・「素人／玄人のボーダレス化現象」に関する研究・・・・・・31
研究分担者： 野坂 祐子（大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター）
- 5 性娯楽施設・産業従業者（SW）の保健行動阻害要因に関する研究・・・・・・・・・・39
研究分担者： 榎本 てる子（関西学院大学神学部）
- 6 性娯楽施設・産業に係る人々への HIV/AIDS 予防介入の可能性に関する研究
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
研究分担者： 中村 美亜（東京藝術大学）*
- 7 性娯楽施設・産業に係る人々のセクシュアル・ヘルスを促進する多様な「しかけ」の検討・開発と実践に関する研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
研究代表者： 東 優子（大阪府立大学人間社会学部）

*本報告書は平成 18・19 年度総括・分担研究報告書に基づいて編集されたものである

総括研究報告

1

日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策
の開発に関する学際的研究

研究代表者： 東 優子（大阪府立大学人間社会学部）
 研究分担者： 池上千寿子（特定非営利活動法人 ふれいす東京）H18-19
 生島 嗣（特定非営利活動法人 ふれいす東京）H18-19
 榎本 てる子（関西学院大学神学部）H20
 徐 淑子（新潟県立看護大学看護学部）
 澁谷 知美（東京経済大学現代法学部）H18
 中村 美亜（東京藝術大学）H19
 野坂 祐子（大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター）

研究要旨

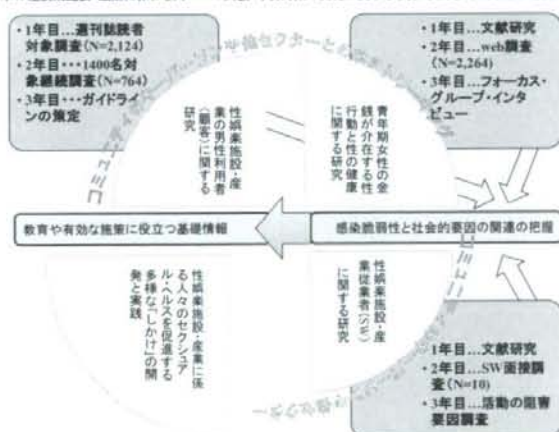
「性風俗産業の従事者及び利用者」は、国内のエイズ対策事業における「個別施策層」のひとつに挙げられている。「個別施策層」とは、「感染の可能性が疫学的に懸念されながらも、感染に関する正しい知識の入手が困難だったり、偏見や差別が存在している社会的背景等から、適切な保健医療サービスを受けていないと考えられるために施策の実施において特別な配慮を必要とする人々」と説明されるが、当該集団はメゾ、マクロ・レベルの具体的な施策の実施が知られていない唯一の個別施策層でもある。平成18年度に始まった「日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究」は、エイズ対策事業で初めてその名に当該集団を冠した研究班として、3年間にわたり、当該集団におけるリスク行動の実態、感染への脆弱性と社会的諸要因の関連を学際的に調査・分析すると同時に、当該集団のセクシュアル・ヘルスを促進する多様な「しかけ」を検討・実施することを目的とする活動を展開してきた。本研究の成果は、予防教育や有効な施策に役立つ有益な基礎情報を提供すると同時に、「個別施策層」に関する重要な研究基盤の構築モデルを示し、well-being およびわが国におけるHIV/AIDS対策事業に貢献するものである。

研究目的

本研究は平成18年度から平成20年度までの3年間にわたり、「性娯楽施設・産業に係る人々」、主として女性セックスワーカー女性および顧客、ボーダーレス・ワーカーら当事者のリスク行動の実態、感染への脆弱性と社会的諸要因の関連を学際的に調査・分析し、well-being およびわが国におけるHIV/AIDS対策事業に貢献することにある。同時に、当事者あるいは当事者について熟知する者（キーパーソン）の参画を含め、職歴・学歴的なメンバーを編成することによる「コミュニティ参加型アプローチ」の開発と実践を目的として実施された。

右図に示すように、本研究は4つの柱で構成されている。それぞれの目的は、A.性娯楽施設・産業を利用する男性顧客のHIV/STDs感染に対する脆弱

日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究（3年計画の流れ図）



性および予防対策ニーズを行動・意識面から評価し、対象者層に必要な予防啓発活動のありようを同定するための基礎情報を得る。B.性娯楽施設・産業従業者（セックスワーカー）の保健行動の阻害要因を把握する。C.性風俗産業の多様化・「素人／玄人のボーダレス化現象」を踏まえ、金銭が介在する性行動をとりながら、産業形態に従事することのない「一般女性」の性行動を把握する。D.性娯楽施設・産業に係る人々のセクシュアル・ヘルスを促進する多様な「しかけ」を検討・開発する、以上である。

研究方法

A.性娯楽施設・産業を利用する男性顧客については、男性週刊誌の協力を得て「性風俗利用経験のある男性」の意識・行動に関する質問紙調査と郵送法による自記式質問紙による継続調査を2年間にわたって実施した。B.性娯楽施設・産業従業者（セックスワーカー）の保健行動を阻害する要因を検討する上では、日本人セックスワーカー（研究2年目）と外国人セックスワーカー（研究3年目）について半構造面接調査を実施した。C.「一般女性」については、携帯を利用したウェブ調査を2年間にわたり実施し、リスク行動の実態、HIV/STDs感染に対する脆弱性および予防対策ニーズを行動・意識面から評価した。D.性娯楽施設・産業に係る人々のセクシュアル・ヘルスを促進する多様な「しかけ」の検討・開発については、(1)国内外のセックスワークに関する文献・資料の収集と整理（特に諸外国の経験における有効かつ多様な事例を収集・整理）、(2)アクセスが困難な当該集団におけるキーパーソンの把握と実態に関するヒアリング、(3)コミュニティ・プラットフォームの開発として開設されたポータルサイト「sexba.jp（せくすばっ）」の有効性の検討、(4)性娯楽施設・産業に係る人々への健康教育介入に向けたガイドラインの検討を行った。

（倫理面への配慮）

研究の実施にあたっては、疫学研究に関する倫理指針を遵守した。質問紙調査やヒアリング／インタビューでは特にプライバシーについて配慮し、調査協力者に対して研究の目的、データの保管や利用について明確にし、自由記述については引用の諾否を

あらかじめ求め、自発的に協力してくれる対象のみに参加してもらうようにした。成果発表では、研究協力者が同定されかねないような情報は改変したり、非公表扱いとした。研究補助を行う者についても、補助作業において知りえた情報を口外しないよう指導を徹底した。調査後の回答者へのフィードバックも行い、HIV/STDsに関する正しい知識など情報提供にも努めている。調査はすべて、大阪府立大学人間社会学研究科（社会福祉学専攻）研究倫理委員会の承認を経て実施された。

研究成果

本報告書では、3年間の研究の中で、初年度からの2年間の成果を踏まえた最終年度の成果を中心に述べる。

A.男性顧客の HIV/STDs 予防に関する意識・行動については、初年度に男性週刊誌を利用した募集法調査に応じた回答者（N=2,124）のうち、継続調査への協力を許諾した1,400人に自記式質問紙（192項目）を郵送するという方法がとられた。有効票785（回収率56.1%）について分析したところ、回答者の年齢（25歳以上75歳まで）で50パーセンタイルは「51-55歳」、56.5%が有配偶であった。過去1年間に女性とセックスをしたことがあったのは81.9%であり、うち性風俗を利用したことのある人は57.1%（平均8.3回利用）であった。直近の利用を業態別に集計したところ、「非本番系」であるはずの業種でも、実態としてかなりの割合で「本番サービス」が行われていることが明らかになった。69.0%が、性風俗利用時にコンドームを1度以上使用していた。コンドーム装着については、「毎回、膣や肛門に挿入する前に装着していた」が64.0%、フェラチオでは52.4%が「一度も使用しなかった」と回答した。また、50.7%が「たいてい・いつも、接客女性が装着した」と回答した。「接客女性と気まずい思いをしてまで生サービスにこだわらない」が71.1%、「風俗店がうちは100%コンドーム使用といえばそれに従う」が79.6%であったが、一方で「接客女性が生でもいいよと思ったら、コンドームは使わない」40.9%、「接客女性に生のサービスを依頼したことがある」が17.2%だった。

データから得られたエビデンスにより、1)一般的な風俗ユーザーは、コンドーム使用の「ルール化」

「規範化」の戦略に反応しやすい、2) 派遣型、非本番、オーラル・セックス=この3つにかかわる介入・対策は、特別な注意が必要、3) 「ポテンシャル」ナマ派を「顕在的」ナマ派に転化させない介入の必要性などのことが示唆された。

B.セックスワーカー (SW) へのインタビュー調査では、日本人を対象とした次年度と外国人を対象とした最終年度で合わせて17名への半構造化面接が実施された。その結果、1) 保健行動の阻害要因として日本人セックスワーカーと外国人セックスワーカーに共通あるいは類似する問題（基本的知識の欠如、低調なピア・ネットワークの実態、売防法・風営法などの壁）が明らかとなると同時に、外国人セックスワーカーについては固有の問題（言語の壁、管理システム、在留資格問題、外国人コミュニティの実態、またそれらに起因する情報・保健医療サービスへのアクセシビリティの困難さ）などが明らかとなった。さらに、今後の介入手法の開発において勘案すべき事項（コンタクト・パーソン、特別な配慮を要する外国人コミュニティの実態、それに基づく介入の「場」と手法に関する工夫など）が明らかになった。

C. 「一般女子」の性行動・意識については、携帯電話アンケート会社に登録している18~29歳の女性2,600名にURLを配信し、その87.1%に当たる2,264名（平均年齢22.7±2.78歳）から質問（21項目）への回答が得られたこれまでに性娯楽産業等で勤務した経験は、「クラブやバーのコンパニオン」19.2%、「デリヘル」6.8%などを含め、575名（全体の25%）であった。また、それと一部回答者が重複するが、「性娯楽施設以外の状況での金銭の授受を伴う性行動の経験」に注目すると、「セックス」が11.8%、「セックス以外の性行為」が14.2%で、321名（全体の14.2%）が、何らかの性行為をして異性から金銭を受け取った経験を有していた。「性娯楽施設以外の状況での金銭の授受を伴う性行動の経験」に注目すると、「事前にコンドームを使うことを確認した」のは48.6%であるが、「自分ではコンドームを使いたかったのに、使わずにセックスをした」のは23.1%で、その他の理由を合わせて77.3%が「性的健康のリスク経験」を報告している。しかし、「金銭の授受を伴わない」場合も83.7%が「性的健康のリスク経験」を報告している。全体の68.8%が「妊娠

したかもしれないと心配した」、30.3%が「自分ではコンドームを使いたかったのに、使わずにセックスをした」経験がある。また、HIVやSTDに関する知識は、一般人を対象とした先行研究と比べて正答率が高かった。自由記述ではSTDやセックスについて具体的な情報を求める声が多く寄せられた。

最終年度には、より広い層の女性を対象とした調査を実施すべく、高収入アルバイト情報誌サイト（月間約20万件の閲覧）および同誌のメルマガ登録会員（約1,600名）を対象に、「18歳以上の性交経験者」に対してアンケート協力の募集を行い、研究班のホームページ上に設置されたアンケートについてPCと携帯電話から回答できるようにした。回収された170票のうち、前年度と同じ年齢群である68名（平均年齢22.91±3.55歳）を分析対象とした結果、性風俗就労経験者は32.4%、調査時点で勤務していた者は16.2%、性風俗店に勤務せず、個人的に金銭を受け取り何らかの性行為をした者は30.9%、「セックスをして金銭を受け取った」者は全体の25%であるなど、前年度調査よりも高い割合を占めた。金銭授受の経験は、性風俗店での就労経験とも関連しており、性風俗就労経験者のほうが個人的な金銭授受の経験も高い結果が示された。金銭授受の有無によるリスク経験を比較したところ、金銭授受がある場合には、「精神的苦痛」や「金銭の不払い」（38%）が挙げられていたのに対し、金銭の授受のない性行為では、「妊娠の心配」（49%）や「コンドームを使えなかった」（37%）が多く挙げられ、金銭授受のない状況でコンドーム不使用のリスクが高まるという、前年度調査と同様の傾向が示された。金銭の授受の有無や相手との関係性などの違いによって、女性には異なるセクシュアル・ヘルスのリスクが存在することが示された。こうした女性の性行動の現状やリスクの実態にあわせた支援や予防啓発が必要であると考えられた。

D. 「性娯楽施設・産業に係る人々のセクシュアル・ヘルスを促進する多様な「しかけ」の検討・開発に関しては、1. 国内外のセックスワークに関する文献・資料の収集と整理を行い、特に諸外国の経験における有効かつ多様な事例を収集・整理、2. アクセスが困難な当該集団におけるキーパーソンの把握と実態に関するヒアリング、3. コミュニティ・プラットフォームの開発として開設されたポータル

サイト「sexba.jp (せくすばっ)」の有効性の検討、4. 性娯楽施設・産業に係わる人々への健康教育介入に向けたガイドラインの検討を行った。性風俗業界のキーパーソンとのネットワーク、聞きとり調査を通じて、「コミュニティ開発」の可能性を検討したところ、1) セックスワーカーNGO および個人の活動の歴史から、活動の阻害要因の一部が明らかとなり、今後の対策と提言の基礎資料が得られた、2) 保健所や風俗求人雑誌メディア、プロモーター、外国人支援団体とのネットワークにより、今後の協働の可能性が検討された。また、MSM など性的マイノリティ・コミュニティとの違いを踏まえた(コミュニティ不在が指摘される日本の性風俗業界において) コミュニケーション・プラットフォームとしての Web サイトの利用可能性を検討すべく「sexba.jp (せくすばっ)」を立ち上げた。開設から2か月間(10月末～12月末現在)で、セッション数7,212、閲覧ページ数24,313を数えており、今後の有効利用の可能性が示唆された。最終年度には、「性娯楽施設・産業に係わる人々」への健康教育介入に向けて、コミュニティ参加を促進する立案・実施・評価ガイドラインを策定することを予定していたが、これについては現在検討段階中である。独自のガイドライン策定にあたり、具体的事例としてEUROPAP/TAMPEP 発行の Hustling for Health、英国政府発行の Drug Intervention for Street Sex Workers、ニュージーランド政府発行のセックスワーカーと健康ガイドライン、平成18-20年度において、当該研究班にて収集した情報を参照し、基本フレームワークとして Public Health Communication Intervention において Nurit Guttman が提唱したフレームワーク、Bartholomew LK らの Intervention Mapping Approach を用いて検討を行っている。これまでに整理された勘案すべき事項は、1) ガイドラインの目的(現況把握、立案・実施・評価における基準と記述言語を提出すること)と機能、2) ガイドラインがとりあつかう内容(用語の定義、ミッション、範囲と介入の次元、健康教育介入の立案・実施・評価のプロセス、対象の健康教育ニーズ、行動目標に応じた介入方法の選択、プログラム・マトリクスの雛形と作成方法、その他(資料など)である。以上の内容に沿って、ガイドラインの草案をまとめてゆく予定である。

考察

匿名性・不可視性・接近困難性をもつ個人・集団を対象とするプログラムの試行と展開において、本研究が目指すのは当事者あるいは当事者について熟知する者を含めた職歴・学際的なメンバーが参画する「コミュニティ参加型アプローチ」である。本研究班のテーマである「性娯楽施設・産業に係わる人々」は、どの立場(接客女性、顧客、経営者)であれ、社会的逸脱のラベリングにより社会的不利益を受けることに、うんざりし、反発している人々であり、保健医療サービス提供者にとっての「接近困難層」である。過去3年間における本研究班が集積したデータは、HIV/STD 予防の教育や施策に有益な基礎情報を提供するものであるが、それ以上に、研究班が用いた研究方法は国内での前例がなく、それ自体がキーパーソンとのネットワークの拡大と深化の成果であると指摘することができる。今後はさらに、ガイドラインの策定およびそれに続くパイロット・プロジェクトの試策を通じて、当事者であり「接近困難層」として捉えられてきた人々が関与し、意味をともなう「コミュニティ参加型」アプローチの実現を促進していきたい。

自己評価

1) 達成度について

研究課題の進行に合わせて、研究班のキーパーソンとのネットワークはさらに進んでおり、コミュニティ参加の主意に沿う、実践研究の基盤の確立は、過去に同様の課題に取り組んできた研究班に類をみないものとなっている。また、このアプローチのメリットを最大限に生かすためには、多様なバックグラウンドをもつ参与者間の意見の集約と調整、関係調整が大きな鍵を握るため、コーディネーションの効率性を向上させ、よりよい健康教育介入の実践の促進が期待されるガイドラインの策定など、課題別研究の統合による包括的な成果が評価できる。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について
本研究が提出するデータは、HIV/STD 予防の教育や有効な施策に役立つ有益な基礎情報を提供するものである。また、本研究が重視する「コミュニティ参加型アプローチ」は、「個別施策層」あるいは「接

近困難層」の人権や社会的背景に考慮した研究モデルを示すものである。とくに、高収入アルバイト情報誌との協働による調査の実施は国際的にも報告事例が確認されず、性風俗産業等への参入に関心を寄せる女性および関係者（顧客・経営者など）に当研究班の運営する情報サイトの閲覧を促すことで、彼らの準備性に寄与する情報が発信できる点は、接近困難層を対象とするコミュニティ開発の新規モデルとして注目に値する。

3) 今後の展望について

コミュニティ参加の主意に沿う、実践研究の基盤の確立は、過去に同様の課題に取り組んできた研究班に類をみないものである。「コミュニティ開発」の可能性を十分に活かし、経営者との協働による男性顧客およびセックスワーカーへの介入、セックスワーカーと保健所などの協働プログラムの開発と実践、外国人セックスワーカーへの介入など、具体的な介入手法を展開してゆきたい。

結論

専門家が提出する疫学的情報や、健康教育ニーズ、介入効果についての情報は、政策や世論の形成に用いられ、社会的資源（とくに財源）の配分にも影響するが、それはプログラムの「対象」「受益者」とされる人たちに常にポジティブな影響を与えるとは限らない。当事者参加と職際・学際性のもとでの実践に資することのできる健康教育プログラムには、多様な背景をもつであろう参画者の共通言語を提供すること、健康教育介入の実践に必要な客観性と実証性を担保しながら実践のレベルまで掘り下げること、プログラムの「対象」「受益者」とされる人たちが「状況の定義」に影響する仕組みを提供することなどが重要となる。

健康危険情報

該当なし

研究発表

研究代表者

東 優子

- 1) 東優子 セックスワーク & HIV/AIDS. *Sex & Sexwork*. 1:11-12, 2009.
- 2) 東優子 HIV 予防対策と接近困難層: ハーム・リダクション事例に学ぶ. *社会問題研究*. 58:87-102, 2009.
- 3) 東優子 セックスワーカーのいるまち. *ぶれいす東京 NewsLetter*. 60: 1.
- 4) 東優子 HIV 感染への脆弱性とセクシュアル・ヘルス/ライツ. *社会問題研究*. 57(2): 27-39, 2008.
- 5) 東優子 多様な性を認める社会と教育. *児童心理*. 62(12): 79-86, 2008.
- 6) 東優子 性的少数者とセクシュアル・ヘルス/ライツ―「健康」概念を取り込む戦略の行方―. *ムーブ叢書6『ジェンダー白書』*(明石書店) 2008
- 7) 東優子. セクシュアル・ヘルスの時代がやってきた. *季刊セクシュアリティ*. No.30: 156-163, 2007.
- 8) Higashi, Y., Nosaka, S., Uchiumi, C., and Suh, S. Sexual Health Practices among Young Japanese Women Who Have Sex in Exchange for Money. The 10th Asia-Oceania Conference for Sexology and Exhibition. Oct 16-20. Beijing, China, 2008.
- 9) Higashi, Y., Sookja, S., Ikegami, C., Nosaka, S., Katsumata, S. (2007). Two thousand (2000) Japanese men and their utilization of sex entertainment establishment/industry. The 18th World Congress of WAS/First World Congress for Sexual Health April 15-19, Sydney, Australia, 2007.
- 10) 東優子 日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究. 平成 18 年度エイズ対策研究事業研究成果発表会 [厚生労働科学研究費 (エイズ対策研究推進事業) 研究成果等普及啓発事業]セックスワーカーのいるまち 2008、大阪、2009年.

12 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

- 11) 東優子 日本の性娯楽施設・産業に係わる人々と「性の健康」、日本性科学連合 第10回性科学セミナー、2008年、京都。
- 12) 野坂祐子、内海千種、東優子、徐淑子 青年期女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルス。第22回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2008年。
- 13) 徐淑子、東優子、野坂祐子、内海千種、勝又沙織 日本人成人異性愛男性における性娯楽サービス利用時のコンドーム使用。第22回日本エイズ学会学術集会・総会、大阪、2008年。
- 14) 徐淑子、東優子、野坂祐子。日本における成人異性愛男性の性娯楽施設・産業の利用とコンドーム使用。第21回日本エイズ学会学術集会、広島、2007年。

分担研究者

池上 千寿子 (分担研究者任期:平成18年度)

- 15) 池上千寿子。ハイリスクグループに対するHIV予防啓発の現状はどうなっていますか? HIV Q&A 改訂版(医療ジャーナル社)、40-41、2006。
- 16) 池上千寿子。性教育このままでいいの?。Ayus、72: 6-7、2006。
- 17) 池上千寿子。どうしたら予防を必ず実践できる人が増えるのか。家族と健康。9: 4-5、2006。
- 18) 池上千寿子、市川誠一、伊藤聡子、宮田一雄。HIV/AIDS 2006。モダンメディア、52: 1-25、2006。
- 19) 池上千寿子、伊藤聡子、岩室紳也、稲垣智一。エイズをめぐる非営利組織の活動と課題。公衆衛生。70: 551-556、629-634、2006。

生島 嗣 (分担研究者任期:平成18年度・19年度)

- 20) 野坂祐子、生島嗣。HIV陽性者のストレスとストレスマネジメント・ワーク・ピア・グループを活用した支援的介入の実践から。聖マリアンナ医学研究誌。7: 137-144、2007。
- 21) 生島嗣。日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究。平成18年度エイズ対策研究事業研究成果発表会〔厚生労働科学研究費(エイズ対策研究推進事業)研究成果等普及啓発事業〕セックスワー

クを仕事とする私が日常的に感じたり考えたりするHIV/AIDS、東京、2008年。

徐 淑子

- 22) 葛西賢太、徐淑子 リカバリー・ダイナミクス・プログラム日本導入の意義と可能性-AAプログラムとの共通点・相違点を検討しながら。日本アルコール関連問題学会雑誌。10: 83-88、2008。
- 23) 徐淑子。薬物・アルコール乱用防止教育とエイズ教育の統合モデルについての基礎的研究、新潟県立看護大学学長特別研究費 平成18年度研究報告書。
- 24) 徐淑子(共著)。LET'S CONDOMing。特定非営利活動法人ぶれいす東京。2007。
- 25) 徐淑子。大学生男子のコンドーム使用とパートナーとの関係。性・性と健康。5:20-22、2006。
- 26) Higashi, Y., Nosaka, S., Uchiyumi, C., and Suh, S. Sexual Health Practices among Young Japanese Women Who Have Sex in Exchange for Money. The 10th Asia-Oceania Conference for Sexology and Exhibition. Oct 16-20. Beijing, China, 2008.
- 27) Suh, Sookja, Developing a Peer-Featured Drama as a Material for Sexual Health Education, The 3rd Asian Conference on Sexuality Education, (Augst19 2007、Rikkyo University, Tokyo)
- 28) Higashi, Y., Sookja, S., Ikegami, C., Nosaka, S., Katsumata, S. (2007). Two thousand (2000) Japanese men and their utilization of sex entertainment establishment/industry. The 18th World Congress of WAS/First World Congress for Sexual Health April 15-19, Sydney, Australia, 2007.
- 29) 徐淑子、東優子、野坂祐子、内海千種、勝又沙織 日本人成人異性愛男性における性娯楽サービス利用時のコンドーム使用。第22回日本エイズ学会学術集会・総会、2008年、大阪。
- 30) 徐淑子。性感染症の予防的保健行動と性の関係性、シンポジウム2、第13回日本行動医学会、2007年3月18日埼玉県立大学。

- 31) 徐淑子. 日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究, 平成 18 年度エイズ対策研究事業研究成果発表会 [厚生労働科学研究費 (エイズ対策研究推進事業) 研究成果等普及啓発事業] 予防啓発のための「しかけ」の開発-当事者と地域資源の連携の視点から-於・ねぎし内科診療所 平成 19 年 11 月 22 日 (木)
- 32) 徐淑子, 東優子, 野坂祐子. 日本における成人異性愛男性の性娯楽施設・産業の利用とコンドーム使用. 第 21 回日本エイズ学会学術集会, 2007 年, 広島.
- 澁谷 知美 (分担研究者任期: 平成 18 年度)
- 33) 澁谷知美, 無防備なセックスをする男子とはどんな男子か—1999 年「青少年の性行動」調査の二次分析, 家族問題研究会 2006 年度シンポジウム「世代とセクシュアリティ」, 2006 年, 東京.
- 中村 美亜 (分担研究者任期: 平成 19 年度)
- 34) 中村美亜. セックスワーク, キリスト教平和学事典. 関西学院大学キリスト教と文化研究センター編. (2008 年刊行予定)
- 35) 中村美亜. 性を楽しく語ろう—性の健康学. 公衆衛生 2009/2007 年 9 月号 (連載中)
- 36) 中村美亜. それゆけセクソロジー (連載). 現代性教育研究月報. 財団法人日本性教育協会, 2007 年 (連載中)
- 野坂 祐子
- 37) 野坂祐子, 内海千種. 青少年の性行動と STD/STI 予防行動について—セクシュアル・ヘルスの観点から—. 大阪教育大学紀要 第 IV 部門 教育科学 第 56 巻 第 2 号, 117-127, 2008.
- 38) 野坂祐子. フィールドワークにおけるジェンダー—ジェンダーをともに生きる〈当事者〉として—. 宮内洋, 今尾真弓編. あなたは当事者ではない—〈当事者〉をめぐる質的心理学研究—. 134-144. 北大路書房: 京都, 2007.
- 39) 野坂祐子. 学校危機とソーシャルサポート. 水野治久, 谷口弘一, 福岡欣治, 古宮昇編. カウンセリングとソーシャルサポート つながり支えあう心理学, 75-86. ナカニシヤ出版: 京都, 2007.
- 40) 野坂祐子. 保健行動とメンタルヘルス. LET' S CONDOMing No.1 テキストブック—Sexual Health をすすめるために—. 16-19. 特定非営利活動法人ぶれいす東京, 2007.
- 41) 野坂祐子. グループワークの円滑な運営について LET' S CONDOMing No.2 ファシリテーター用ガイド—授業を円滑にすすめるために—. 19-33. 特定非営利活動法人ぶれいす東京, 2007.
- 42) 野坂祐子 (共著) LET' S CONDOMing No.3 ワークブック—授業プランの組立て—. 特定非営利活動法人ぶれいす東京, 2007.
- 43) 野坂祐子 (共著) LET' S CONDOMing No.4 シナリオブック—ドラマの流れとポイント解説—. 特定非営利活動法人ぶれいす東京, 2007.
- 44) 野坂祐子. 被害者支援. 藤岡淳子編『対人関係における暴力—その理解と回復への手立て』, 岩崎学術出版社, p. 131-148, 2008.
- 45) 野坂祐子. 思春期男子の性的発達—中高生へのフィールドワークから見えてくるもの—. 財団法人日本性教育協会編『思春期の性衝動—男の子の性を考える— (性科学ハンドブック vol. 11)』, 財団法人日本性教育協会 p. 45-65, 2008.
- 46) 野坂祐子. エスノグラフィックな手法とは. 無藤隆・佐久間路子編『発達心理学 (心理学のポイント・シリーズ)』, 学文社, p. 140-141, 2008.
- 47) 野坂祐子. 暴力被害にあった子どもの支援. 藤森和美編『学校危機と子どもの心の危機管理』, 誠信書房, p. 72-86, 2009.
- 48) 野坂祐子. 性の成熟が思春期の子どもに与える影響 (p. 172-173), いじめを防ぐには (p. 198-199), 観察法 (p. 274-275), 危機介入とは (p. 304-305, 無藤隆ら編『よくわかる心理学』, ミネルヴァ書房, 2009.
- 49) Nosaka, S., Yoshida, H. (2006). Sexual Victimization. *Japanese Childhood. International Society for Traumatic Stress Studies 22nd Annual Meeting Final program and Proceeding*, p. 204.

50) Yoshida, H., Konishi, T., Nosaka S.(2006). Mental Illness in Intimate Partner Violence. *Japanese Childhood. International Society for Traumatic Stress Studies 22nd Annual Meeting Final program and Proceeding*, p.166.

51) Higashi, Y., Nosaka, S., Uchiumi, C., and Suh, S. Sexual Health Practices among Young Japanese Women Who Have Sex in Exchange for Money. The 10th Asia-Oceania Conference for Sexology and Exhibition. Oct 16-20. Beijing, China, 2008.

52) Higashi, Y Suh, S, Ikegami, C, Nosaka, S, Katsumata, S: Two thousand (2000) Japanese men and their utilization of sex entertainment establishment/industry. Presented at 18th World Congress of the WAS/1st World Congress for Sexual Health (April 15-19, 2007, Sydney, Australia)

53) Nosaka, S., Yoshida, H.(2006). Sexual Victimization. *Japanese Childhood. International Society for Traumatic Stress Studies 22nd Annual Meeting Final program and Proceeding*, p.204.

54) Yoshida, H., Konishi, T., Nosaka S.(2006). Mental Illness in Intimate Partner Violence. *Japanese Childhood. International Society for Traumatic Stress Studies 22nd Annual Meeting Final program and Proceeding*, p.166.

55) 徐淑子、東優子、野坂祐子. 日本における成人異性愛男性の性娯楽施設・産業の利用とコンドーム使用. 第21回日本エイズ学会学術集会、2007年、広島.

56) 野坂祐子、内海千種、東優子、徐淑子 青年期女性における金銭が介在する性行動とセクシュアルヘルス. 第22回日本エイズ学会学術集会・総会、2008年、大阪.

57) 野坂祐子 教育フィールドにおける観察者の省察－観察者の実戦経験の投影としてのフィールド理解. 日本質的心理学会第5回大会、2008年、筑波.

58) 徐淑子、東優子、野坂祐子、内海千種、勝又沙織 日本人成人異性愛男性における性娯楽サービス利用時のコンドーム使用. 第22回日本エイズ学会学術集会・総会、2008年、大阪.

知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし

分担研究報告

2

セックスワークに関する先行研究の整理と分析

研究分担者： 渋谷 知美（東京経済大学現代法学部）

研究要旨

初年度は研究班が柱とする四つの項目について、先行する言論および調査研究がいかなる知見を提示しているのかを概観することを目的とした文献調査を行った。そのさいの「先行する言論」とは、じっさいに性娯楽施設・産業に従事する人びと(以下、「セックスワーカー」と表記)による発言を中心とする。本研究班が対象とする性娯楽施設・産業に関わる人々のうち、セックスワーカーはもっとも重要な地位を占めているといっても過言ではない。彼女たちの意見に耳を傾けることは、研究倫理として、本研究が当事者の利益を損なう方向に向かわないためにも必要なことである。「先行する調査研究」とは、主として公衆衛生の分野における調査研究のことを指す。

次年度では、性娯楽施設・産業従業者（セックスワーカー：SW）への半構造化面接を実施するに先立ち、SWの社会的地位のヴァルネラビリティ（脆弱性）に配慮しながら、いかにして調査を行うべきかを先行研究から明らかにすることを目的として、文献調査を行った。

研究目的と方法

初年度は研究班が柱とする四つの項目について、先行する言論および調査研究がいかなる知見を提示しているのかを概観することを目的としている。四つの項目とは、

- ①性娯楽施設・産業を利用する男性の意識や行動の実態(A班)
- ②性娯楽施設・産業に従事するセックスワーカー支援の望ましいあり方(B班)
- ③性娯楽施設・産業におけるセーフターセックスの阻害要因(B班)
- ④一般女性における素人／玄人のボーダレス化現象の実態(C班)

である。これらの項目に関連する知見を、先行する言論と調査研究に探る。そのさいの「先行する言論」とは、じっさいに性娯楽施設・産業に従事する人びと(以下、「セックスワーカー」と表記)による発言を

中心とする。日本では 90 年代末あたりから、セックスワーカーやそれに近い立場の人びとの発言がよく聞かれるようになってきた。その中には、従来の、研究者や非従事者などによる第三者的な立場からの発言の是正を求めるものもある。本研究班が対象とする性娯楽施設・産業に関わる人々のうち、セックスワーカーはもっとも重要な地位を占めているといっても過言ではない。彼女たちの意見に耳を傾けることは、研究倫理として、本研究が当事者の利益を損なう方向に向かわないためにも必要なことである。「先行する調査研究」とは、主として公衆衛生の分野における調査研究のことを指す。日本においてセックスワークの現場に焦点を当てた保健行動研究はあまり見当たらないので(ワーカーの HIV 関連知識の実際を明らかにしたものや、ワーカーのネットワーク形成の実践報告は存在する。『HIV 感染症の疫学研究班報告書』2000 年参照)、海外の研究に探った。そのさい、1990 年から 2000 年の間に英語で発表された膨大な数の文献を手際よくまとめた Vanwesenbeeck(2001)を参照した。

研究2年目では、性娯楽施設・産業従業者（SW）への半構造化面接を実施するに先立ち、SWの社会的地位のヴァルネラビリティ（脆弱性）に配慮しながら、いかにして調査を行うべきかを先行研究から明らかにすることを目的として、文献調査を行った。

研究結果と考察

初年度の文献研究は、研究班が柱とする4つの項目について、実際に働いているワーカーの見解と海外における保健行動研究の見解がいかなる知見を提出しているのかをまとめることを目的としていた。

はじめに日本においていかなる経緯でワーカーの声が前景化してきたのかをたどった。1980年代末の「性の商品化」批判は、売春を一義的に「悪」としたが、1990年代はじめになると、売春をしている女性たちの「自由意志」が着目されるようになる。そして、もし女性たちが「自由意志」で働いているのなら、売春を批判することは困難であるとの主張が聞かれるようになる。90年代半ばになると、社会科学の分野で、じっさいに働く女性たちの実態と彼女たちが直面している困難が調査されるようになる。また、これまで不問に付されていた「買春」をする男性が焦点化され、彼らが買春に求めるものや動機などを探る試みがなされる。

しかし、こうした動きはワーカーではない人々の手になるものだった。90年代末からは実際に性娯楽施設・産業に従事する女性たちの論考が相次いで発表されるようになる。そこでは、ワーカーとそうでない人々の認識の間には大きなギャップがあることが指摘されていた。

以上の経緯をふまえて、本研究の課題について、ワーカーやそれに近い立場の人々からどのような見解が提出されているかを、海外における研究結果をも用いつつ、まとめた。「性娯楽施設・産業を利用する男性の意識や行動」については、ワーカーのもとに通う男性の社会的属性に一定の傾向は認められないとする見解が優位である。意識面についても、一定の傾向を認める研究とそうでない研究が混在している。「性娯楽施設・産業に従事するセックスワーカー支援の望ましいあり方」については、研究者ではなくワーカーにとって何が「必要」なのかを十分にヒアリングした上で調査研究を進めることが重要であることを指摘した。「ワーカーにとって必要なこ

と」がHIV予防の観点から見て望ましくない場合の対応も含めて、施策を考えておく必要がある。また、「ワーカーにとって必要なこと」を満たすべく施策を立てたとして、その施策方法によってはワーカーを危機にさらすことがある。「性娯楽施設・産業におけるセイファーセックスの阻害要因」については、ワーカーのプロ意識や自尊心の欠如、店側の無理解、客のワーカーに対する意識などが、セイファーセックスの成否に関わっている。しかも、各要素は複雑にからみあっているため、丁寧な分析が望まれる。「一般女性における素人／玄人のボーダレス化現象の実態」は、「それ以外の仕事を持っている、あるいは就学をしている人の増加」と「短い就労期間と非就労期間を繰り返しながらセックスワークに参入している人の増加」の二側面において生じている可能性がある。

研究2年目は、性娯楽施設・産業従業者（SW）への半構造化面接を実施するに先立ち、SWの社会的地位のヴァルネラビリティ（脆弱性）に配慮しながら、いかにして調査を行うべきかを先行研究から明らかにすることを目的とする文献調査を行った。これにより、社会地位的にヴァルネラブルなSWへの半構造化面接を行うに際して配慮すべき点を、面接調査の実施段階、調査結果の解釈段階に分けてまとめれば以下ようになる。

調査の実施段階では、①許される範囲内でインフォーマントと活動をともにし、多角的な視点をとるよう努めること。②社会的立場の相違のみならず、書き手と書かれ手の立場の違いに意識的になることが挙げられる。

調査の解釈段階では、①語られたことを、別の立場にある人の視点や、同一人物の別の時の発言などから、多角的に検証すること。②参与観察や面接調査以外にも、印刷物やインターネットなど多様なリソースからの情報集取を行い、調査結果との比較を行うこと。③まとめたデータはいったん当事者にフィードバックし、その見解を反映した上で最終的な結果とすること。④相対的に立場の強い調査者はインフォーマントを非力な存在として表象しがちだということに自覚的になること、が挙げられる。

健康危険情報

該当なし

研究発表

- 1) 澁谷知美、無防備なセックスをする男子とはどんな男子か——1999年「青少年の性行動」調査の二次分析、家族問題研究会 2006年度シンポジウム「世代とセクシュアリティ」、2006年、東京。

知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし

【参考文献】

- <平成 18 年度>「本研究プロジェクトの課題をめぐる先行知見のまとめ—90 年代以降の日本におけるセックスワークをめぐる議論を中心として—」
- いのうえせつこ. 買春する男たち. 新評論. 1996.
- 要友紀子・水島希. 風俗嬢意識調査: 126 人の職業意識. ポット出版. 2005.
- 加納実紀代. 主婦は長期契約の売春婦?: 買春の是非をめぐる. 岡野・長谷川・渡邊編. 買春と日本文学. 東京堂出版. 12-23, 2002.
- 佐野眞一. ルポ下層社会: 改革に乗てられた家族を見よ. 文藝春秋. 84(5):94-109, 2006.
- 瀬地山角. よりよい性の商品化へ向けて. 江原由美子編. フェミニズムの主張. 勁草書房. 45-91, 1992.
- セックスワーク研究会. 「性産業」に従事する女性たちの労働権・人権に関する実証的研究. 1996.
- 男性と買春を考える会. 買春に対する男性意識調査. 1998.
- 菜摘ひかる. 風俗嬢菜摘ひかるの性的冒険. 洋泉社. 1998.
- 菜摘ひかる. 池袋イメクラ日記. 二見書房. 1998.
- 橋爪大三郎. 売春のどこがわるい. 江原由美子編. フェミニズムの主張. 勁草書房. 2-43, 1992.
- 林千代. 性の商品化について. 性の商品化に関する研究. 東京都生活文化局. 1990.
- 福島瑞穂・中野理恵. 買う男・買わない男. パンドラ. 1990→1995.
- 松沢呉一編. 売る売らないはワタシが決める. ポット出版. 2000.
- 圓田浩二. 誰が誰に何を売なのか?: 援助交際にみる性・愛・コミュニケーション. 関西学院大学出版会. 2001.
- 水島希. セックスワーカーの運動: それでも現場はまわっている. 姫岡・池内・中川・岡野編. 労働のジェンダー化: ゆらぐ労働とアイデンティティ. 平凡社. 129-153, 2005.
- 桃河モモコ. セックスワーカーから見たビル. インパクション. 105:53-61, 1997.
- 山口みずか. ていんくる系必勝講座. 太田出版. 1998.
- Alegria, M., Vera, M., Freeman, D. H., Robles, R., del C. Santos, M., & Rivera, C. L. (1994). HIV infection, risk behaviors, and depressive symptoms among Puerto Rican sex workers. *American Journal of Public Health*, 84, 200-202.
- Bloor, M. J., McKeganey, N. P., Finalay, A., & Barnard, M. A. (1992). The inappropriateness of psycho-social models of risk behaviour for understanding HIV-related risk practices among Glasgow male prostitutes. *AIDS Care*, 4, 131-137.
- Boles, J., & Elifson, K. W. (1994a). Sexual identity and HIV: The male prostitute. *The Journal of Sex Research*, 31, 39-46.
- Brewis, J., & Linstead, S. (2000). "The worst thing is the screwing"(1): Consumption and the management of identity in sex work. *Gender, Work and Organization*, 7, 84-96.
- Browne, J., Minichiello, V. (1995). The social meanings behind male sex work: Implications for sexual interactions. *British Journal of Sociology*, 46, 598-622.
- Browne J., Minichiello, V. (1996a). Research directions in male sex work. *Journal of Homosexuality*, 31(4), 29-56.
- Burgos, M., Richter, D. L., Reininger, B., Coker, A. L., Saunders, R., Alegria, M., et al. (1999). Street based female adolescent Puerto Rican sex workers: Contextual issues and health needs. *Family and Community Health*, 22, 59-71.
- Delacoste, F. and Priscilla Alexandar eds., (1987). *Sex Work: Writings by Women in the Sex Industry*, Pittsburgh, Pa: Cleis Press. =セックスワーク: 性産業に携わる女性たちの声. パンドラ. 1993.
- Dersen, S., Shedlin, M., Davis, W. R., & Clatts, M. C. (1997). Dominican, Mexican, and Puerto Rican prostitutes: Drug use and sexual behaviors. *Hispanic Journal of Behavioral Sciences*, 19, 202-213.
- Elifson, K. W., Boles, J., Posey, E., Sweat, M., Darrow, W., & Elsea, W. (1993). Male transvestite prostitutes and HIV risk. *American Journal of Public Health*, 83, 260-262.
- Gossop, M., Powis, B., Griffiths, P., & Strang, J.

- (1995) Female prostitutes in south London: Use of heroin, cocaine and alcohol, and their relationship to health risk behaviours. *AIDS Care*, 7, 253-260.
- Graaf, R. de, Vanwesenbeeck, I., van Zessen, G., Straver, C. J. & Visser, J. H. (1994). Male prostitutes and safe sex: Different settings, different risks. *AIDS Care*, 6, 277-288.
- Graaf, R. de, van Zessen, G., Vanwesenbeeck, I., Straver, C. J. & Visser, J. H. (1996). Segmentation of heterosexual prostitution into various forms: A barrier to the potential transmission of HIV. *AIDS Care*, 8, 417-431.
- Graaf, R. de, van Zessen, G., Vanwesenbeeck, I., Straver, C. J. & Visser, J. H. (1997). Condom use by Dutch men with commercial heterosexual contacts: Determinants and considerations. *AIDS Education and Prevention*, 9, 411-423.
- Griensven, G. J. P. van, Limanonda, B., Chongwatana, N., Tiransawat, P., & Coutinho, R. A. (1995). Socio-economic and demographic characteristics and HIV-1 infection among female commercial sex workers in Thailand. *AIDS Care*, 7, 557-565.
- Hoigard, C., & Finstad, L. (1992). *Backstreets, prostitution, money and love*. State College, PA: The pennsylvania State University Press.
- Jackson, L. A., & Highcrest, A. (1996). Female prostitutes in North America: What are their risks of HIV infection? In L. Sherr & C. Hankins (Eds.), *AIDS as a gender issue: Psychological perspectives* (Social aspects of AIDS series, pp. 149-162). London: Taylor & Francis.
- Joesoef, M. R., Kio, D., Linnan, M., Kamboji, A., Barakbah, Y., & Idajadi, A. (2000). Determinants of condom use in female sex workers in Surabaya, Indonesia. *International Journal of STD and AIDS*, 11, 262-265.
- Joffe, H., & Dockrell, J. E., (1995). Safer Sex: Lessons from the male sex industry. *Journal of Community and Applied Social Psychology*, 5, 333-346.
- Kiamarx, P. H., Limpakarnjanarat, K., Mastro, T. D., Saisorn, S., Kaewkungwal, J., Korattana, S., et al., (1998). HIV-1 seroconversion in a prospective study of Female sex workers in northern Thailand: Continued high incidence among brother-based women. *AIDS*, 12, 1889-1898.
- Kleiber, D., Velten, D., & Wilke, M. (1993). Kunden weiblicher Prostituierter und AIDS [Female prostitutes' customers and AIDS]. *Zeitschrift fuer Sexualforschung*, 6, 218-227.
- McKeganey, N. P., (1994a). Prostitution and HIV: What do we know and where might research be targeted in the future? *AIDS*, 8, 1215-1226.
- McKeganey, N., (1994b). Why do men buy sex and what are their assessments of the HIV-related risks when they do? *AIDS Care*, 6, 289-301.
- Monto, A. Martin, (2000). Why Men Seek out Prostitutes. In Ronald Weitzer (Ed.) , *Sex for Sale : prostitution, pornography, and the sex industry*. New York : Routledge, 67-83, 2000. = なぜ男は売春婦を求めるのか、セックス・フォー・セール。ポット出版。106-125,2004.
- Monto, M. A., & Hotaling, N. (2001). Predictors of rape myth acceptance among male clients of female street prostitutes. *Violence Against Women*, 7, 275-293.
- Morris, M., Pramualratana, A., Podhisita, C., & Wawer, M. J. (1995). The relational determinants of condom use with commercial sex partners in Thailand. *AIDS*, 9, 507-515.
- O'Connell Davidson, J. (1998). *Prostitution, power and freedom*. Cambridge: Polity Press.
- Paul, C., Dickson, N., Davis, P., Yee, R. L., Chetwynd, J., & McMillan, . (1995). Heterosexual behaviour and HIV risk in New Zealand: Data from a national survey. *Australian Journal of Public Health*, 19, 13-17.
- Pickering, H., Quigley, M., Hayes, R. J., Todd, J., & Wilkins, A. (1993). Determinants of condom use in 24,000 prostitutes/client contacts in The Gambia. *AIDS*, 7, 1093-1098.

- Plumridge, E. W., Chetwynd, S. J., Reed, A., & Gifford, S. J. (1996). Patrons of the sex industry: Perceptions of risk. *AIDS Care*, 8, 405-416.
- Plumridge, E. W., Chetwynd, S. J., Reed, A., & Gifford, S. J. (1997). Discourses of emotinality in commercial sex: The missing client voice. *Feminism and Psychology*, 7(2), 165-181.
- Prybylski, D., & Alto, W. A. (1999). Knowledge, attitudes and practices concerning HIV/AIDS among sex workers in Phnom Penh, Cambodia. *AIDS Care*, 11, 459-472.
- Pyett, P. M., & Warr, D. J. (1997). Vulnerability on the streets: Female sex workers and HIV risk. *AIDS Care*, 9, 539-547.
- Simon, P. M., Morse, E. V., Balson, P. M., Osofsky, H. J., & Gaumer, H. R. (1993). Barriers to human immunodeficiency virus related risk reduction among male street prostitutes. *Health Education Quarterly*, 20, 261-273.
- Sneed, C. D., & Morisky, D. E. (1998). Applying the Theory of Reasoned Action to condom use among sex workers. *Social Behavior and Personality*, 26, 317-327.
- Thuy, N. T. T., Nhung, V. T., Van Thuc, N., Lien, T. X., & Khiem, H. B. (1998). HIV infection and risk factors among female sex workers in southern Vietnam. *AIDS*, 12, 425-432.
- Vanlandingham, M., Knodel, J., Saengtienchai, C., & Pramualratana, A. (1998). In the company of friend: Peer influence on Thai male extramarital sex. *Social Science and Medicine*, 47, 1993-2011.
- Vanwesenbeeck, I. (1994). Prostitutes' well being and risk. Amsterdam: V University Press.
- Vanwesenbeeck, I. (2001). Another Decade of Social Scientific Work on Sex Work: A Review of Research 1990-2000. *Annual Review of Sex Research*, 12, 242-289.
- Vanwesenbeeck, I., Graaf, R. de (1998). Sex Work and HIV in The Netherlands: Policy, research and prevention. In T. Sandfort (Ed.), *The Dutch response to HIV: Pragmatism and consensus* (Social aspects of AIDS series, pp. 86-106). London: Taylor & Francis Group, UCL Press.
- Vanwesenbeeck, I., de Graaf, R., van Zessen, G., Straver, C. J. & Visser, J. H. (1993b). Protection styles of prostitutes' clients: Intentions, behavior, and considerations in relation to AIDS. *Journal of Sex Education and Therapy*, 19, 79-92.
- Vanwesenbeeck, I., de Graaf, R., van Zessen, G., Straver, C. J. & Visser, J. H. (1995). Professional HIV risk taking levels of victimization, and well being in female prostitutes in The Netherlands. *Archives of Sexual Behavior*, 24, 503-515.
- Vanwesenbeeck, I., van Zessen, G., de Graaf, R., & Straver, C. J. (1994). Contextual and interactional factors influencing condom use in heterosexual prostitution contacts. *Patient Education and Counseling*, 24, 307-322.
- Vennix, P., van Mens, L., ten Horn, F., Lavina, D., van t Hof, M., & Vanwesenbeeck, I. (2000). *Klanten van transgenders* [Clients of transgenders]. Utrecht, The Netherlands: NISSO.
- Wawer, M. J., Podhisita, C., Kanungasukkasem, U., Pramualratana, A., & McNamara, R. (1996). Origins and working conditions of female sex workers in urban Thailand: Consequences of social contest for HIV transmission. *Social Science and Medicine*, 42, 453-462.
- Wilson, D., Manual, A., & Lavelle, S. (1992). Personality characteristics of Zimbabwean men who visit prostitutes: Implications for AIDS prevention programmes. *Personality and Individual Differences*, 13, 275-279.
- Wong, M. L., Archibald, C., Chan R. K. W., Tan, T. C. & Goh, C. L. (1994). Condom use negotiation among sex workers in Singapore: Findings from Qualitative research. *Health Education Research*, 9, 57-67.
- Wong, M. L., Chan, R., Koh, D., & Wong C. M. (1995). Theory and action for effective condom promotion: Illustrations from behavior intervention project for sex workers I Singapore. *International Quarterly of*

Community Health Education, 15, 405-421.

Xantidis, L., & McCabe, M. P. (2000). Personality characteristics of male clients of female commercial sex workers in Australia. *Archives of Sexual Behavior*, 29, 165-179.

<平成 19 年度>「SW への半構造化面接のための文献研究」

青山薫 2007『「セックス・ワーカー」とは誰か： 移住・性労働・人身取引の構造と経験』大月書店

川橋範子 1997「フェミニストエスノグラフィの限界と可能性： 女による女についての女のための民族誌？」『宗教と社会』1997 年別冊号、54-55 頁

Abu-Lugho, 1993, "Can There be a Feminist Ethnography?" *Women and Performance*, 5: 5

Mohanty, 1984, "Under Western Eyes: Feminist Scholarship and Colonial Discourses," *Boundary*, 2:337

O'Connell Davidson, 1998, *Prostitution, Power and Freedom*, Polity Press: 7

O'Neil, 2001, *Prostitution & Feminism: towards a Politics of Feeling*, Polity: 50